

第44期 日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画 研修終了報告書

2017年8月
井上 萌 (広島県)

研修概要

日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画 (旧称：日墨交流計画) は、日墨両国の戦略的グローバル・パートナーシップの強化に貢献出来るような若手人材の育成を目的として、日墨両政府により1971年から提供されている交換留学制度です。この度私はグアナファト州と友好提携を結ぶ広島県からの推薦を頂き、メキシコ政府から一定の給付を受けながらメキシコで1年間勉強する機会を頂きました。この1年を通してスペイン語の習得に努めるとともに、以前から関心の深かったメキシコの独立運動や壁画運動の歴史、その他様々なメキシコの文化と日墨関係のあり方を学びました。また10月には広島県よりグアナファト州に派遣して頂き、自動車産業の進出とそれがもたらした変化を中心に、広島とグアナファト間の多様な関係性についても学ぶことができました。メキシコでの自身の目標達成に向けた様々な学習と体験の中で、日墨関係の可能性とそのよりよいあり方についても、自分なりの考えを持つことができるようになったと感じています。

1. 研修先と期間

メキシコ国立自治大学
Universidad Nacional Autónoma de México (UNAM)
- 外国人のためのスペイン語コース
Centro Enseñanza Para Extranjeros (CEPE)

2016/8/21 ~ 2017/8/1

2. 研修内容

2-1 大学(CEPE)で修了した授業

●スペイン語必修授業

- ・基礎スペイン語 (1~4)
- ・中級スペイン語 (1)

●その他受講した授業

- ・発音
- ・文法
- ・会話
- ・西作文
- ・サルサダンス
- ・メキシコ美術・民芸品
- ・メキシコ社会学

2-2 グアナファト州での研修

- ・グアナファト州教育省訪問
- ・在レオン総領事館訪問
- ・グアナファトアミーゴ会会食
- ・マツダメキシコ工場見学 (Mazda de México Vehicle Operation)
- ・グアナファト大学外国語学科日本語コース見学、意見交換会
- ・モヒガン工房訪問
- ・グアナファト補修校訪問
- ・イチゴ加工工場見学
- ・バレンシアーナ銀山・聖堂見学

2-3 その他主な課外活動

- ・日本語クラブ見学、手伝い
 - ・漫画クラブ(@日墨会館) 見学、手伝い
 - ・日墨協会春祭りボランティア
 - ・硝子工房見学
 - ・メキシコで働く日本人の方々へのインタビュー
 - ・その他
- 植民地時代以前のメキシコ文化、メキシコ革命、壁画運動、民芸品、現代アート、食文化等にまつわる博物館、美術館、建築物、壁画作品等の見学 等

3. 研修目標と達成状況、今後の課題

①実践的なスペイン語能力の向上

▶CEPEではBásico1- 4, Intermedio1をすべて修了し、更に文法や会話等のスキル向上のため追加で授業を受講した。この1年間で基礎的なスペイン語能力に加え、読解・記述・聞き取り・会話、どの側面に置いてもスペイン語でより豊かな表現が出来るようになった。

▶将来的にはスペイン語通訳案内士の資格を取りたいと考えており、帰国後はDELE (B2) の受験にむけて学習を継続している。

②メキシコの壁画作品について芸術的観点、歴史的観点から学ぶ

▶ 研修計画段階で行きたいと考えていた

- 国立宮殿
- ディエゴ・リベラ壁画館
- チャプルテペック城
- シケイロス美術館
- メキシコ文部省
- ポリフォルムシケイロス
- メキシコ国立自治大学

をはじめとする様々な場所に実際に赴き、本物の作品を見ることができたことは非常に貴重な体験になった。研修期間終盤は友人の助けを借りてUNAMや国際交流基金メキシコ事務所、日墨会館などの図書館で文献にあたり、スペイン語を使って更にメキシコ壁画運動への関心と理解を深めることができたと感じている。

▶今後大学ではこれらの学習を活かして、メキシコの壁画作品が生まれた歴史的背景を鑑みながら、メキシコ芸術が近代日本の芸術に与えた影響、とりわけ壁画運動3大巨匠の1人であるシケイロスと岡本太郎の作品の関連性について研究を進めていきたいと考えている。

③日墨関係をメキシコから多角的にとらえる

▶日本とメキシコの間の関係性について、研修計画段階では主に

- ・自動車産業、農産業を中心とした経済的関係
- ・壁画運動をはじめとする芸術面での関係
- ・共に世界遺産として登録された食文化
- ・その他日本文化の受容状況

といった観点で関心を持っていた。

▶これら全ての事柄について、グアナファト研修では学んだことがとりわけ多く、自動車産業の進出という1つの経済的活動がきっかけとなって、今やグ

アナファトと広島の間にはワークスタイル、教育、芸術、その他あらゆる面で互いへの関心と敬意を基盤とした深い関係性が築かれつつあること、しかしそれは同時に、メキシコが抱えていた問題と広島が抱えていた問題、そして今後新たに生じらるであろう問題をも共に自身の問題として認識し、連帯して改善していかなくてはならないという重大な責任の伴う変化なのだということを、身をもって感じる事ができた。またインタビューや現場の見学を通して、その巨大な変化の前線で働く日本とメキシコの方々のやりがいに満ちた力強さに触れることができたのは、自分にとって特に素晴らしい経験となった。

▶また渡航以前は強く意識することがなかったが、広島県は全国第一位の移民送出県であり、戦前戦後あわせておよそ11万もの方々が、アメリカ、カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、その他様々な国に移住してきたという歴史を持つ。メキシコ広島県人会の方々と交流や日墨会館でのボランティア活動を通じて、現在広島県にルーツをもつ多くの日系人がメキシコでも様々な活躍されており、さらには2カ国間における、草の根交流の特に重要な橋渡しの役割を果たしているのだと気付くことができた。

▶日本の歴史、食文化、伝統スポーツ、文学作品など、メキシコの方々はとかく驚くほど様々な側面で日本に強い関心を持ってくださっていたが、日本のアニメ作品、漫画作品に対する関心の強さは一際と感じた。週末に通わせていただいた日墨会館の漫画クラブでも、子どもたちが漫画やアニメについて一生懸命語り合い、その制作に明け暮れ、さらには日本の漫画スタイルともアメリカのコミックスタイルとも違うメキシコスタイルを確立するのだと語ってくれた。これらの関心は、日本語や日本文化を学習したり、日本への留学や日系企業での就職を志したりする大きなきっかけになっている。アニメや漫画をはじめとする純粋な文化的事柄への関心とそれを生かした交流は、今後両国が戦略的グローバル・パートナーシップを築く上で最も不可欠な友好的パートナーシップを築きあげ、人の心を対等に近づけるための極めて重要な役割を果たしていくと確信する。

この学びの機会を与え、支えてくださったメキシコと日本の全ての方々に心から感謝しています。この研修で出会った人々とのつながりを大切に、学んだことを活かして更に勉強を続けていきます。その先で、またメキシコと再会できますように。